

全国学力・学習状況調査の結果及び 「確かな学力」の育成に向けた取組

総合支援課小中学校班

研究の概要

一昨年度（平成 25 年度）の全国学力・学習状況調査において、小学校国語 A の結果をきっかけに、本県の学力に対する注目が一気に高まった。そのような中、本県の最も大きな課題は「調査問題や調査結果を活用する意識が低い」ことであった。このことは同時に、学習指導要領に対する教員の意識の低さにもつながっており、こうした意識を高めることが本県の喫緊の課題となった。

そうした課題に対応するための取組の 1 つに、早期対応がある。4 月の調査終了後、自校採点を行い、8 月末の文部科学省からの結果公表を待たずに、早期に指導の工夫改善に役立てるものである。「採点をする」ことにより、教員と調査問題の距離が縮まり、本調査や学習指導要領を大切にしたい授業を行う意識を高めることにつながった。その他、教員の意識高揚及び確かな学力の育成を目的として、「チア・アップコンテンツ」「チア・アップシート」及び「授業改善モデルプラン」の作成を行った。概要は次のとおりである。

◇「チア・アップコンテンツ」の作成

調査問題及び早期対応による正答率を分析し、現状と対策をまとめた音声付きプレゼンテーション資料を国語、算数・数学、理科、総合（質問紙調査）で作成し、7 月にセンターホームページに掲載した。

◇「チア・アップシート」の作成

小・中学校の国語、算数・数学、理科において、過去の調査結果から課題がみられる項目について、過去問題又は類似問題に解答例や解説を加えて作成し、9 月と 2 月にセンターホームページに掲載した。

◇「授業改善モデルプラン」の作成

小学校の国語、算数、理科において、学習指導要領に基づく「付きたい力」を明確にした単元構想及び評価問題の例を作成し、9 月と 2 月にセンターホームページに掲載した。

このような取組により、右の表のとおり、調査問題や調査結果を活用する意識が大幅に高まった。それが小学校の国語 A B、算数 A B の 4 科目全てで調査開始以来初めて全国の平均正答率を上回ったことや、中学校の国語 A B、数学 A B、理科の 5 科目全てで調査開始以来継続して全国の平均正答率を上回っていることなど、良好な調査結果につながった要因であると考えられる。

調査問題や調査結果の活用

		H25	H27
小	県	75.4	97.9
	国との差	-13.3	+2.1
中	県	66.6	93.2
	国との差	-18.3	0.0

単位 (%)